



# メッセージ

環境学習都市宣言10周年記念誌

NISHINOMIYA



山・川・海といった豊かな自然を有するまち、西宮市。

貴重な動植物も多数生息し、市ならではの生態系が存在しています。

誇るべき西宮の自然を未来へ引き継いでいくためには、

その素晴らしさを知り、よりよい関係を築くために学ぶことが必要です。

西宮市民は、子どもから大人まで多くの方が

多彩な環境学習活動を行っています。

その活動によって、今日の「環境学習都市にしのみや」があるのです。

## 目次

ごあいさつ ..... 1

### 巻頭記事

環境学習都市宣言10周年記念  
環境まちづくりフォーラム ..... 2

環境学習都市にしのみや ..... 5

西宮市の環境 ..... 6

環境学習都市宣言 ..... 8

環境学習都市にしのみや 協働で歩んだ10年 ..... 12

西宮ACTION! ..... 17

大切な環境を守るのは私たち西宮市民 ..... 18

市民の取り組み ..... 19

事業者の取り組み ..... 20

行政の取り組み ..... 22

三者の取り組み ..... 24

エココミュニティ会議 ..... 25

特集 子どもECOアクション! ..... 28

環境学習事業 ..... 32

未来へのメッセージ ..... 35

メッセージが創る西宮の未来 ..... 36

最新TOPICS ..... 40

## 環境学習都市宣言から 10年を迎えて



私たちが住む西宮市は、阪神間の中間に位置する利便性と山・川・海の豊かな自然環境に恵まれ、歴史的な文化遺産や大学も各所に立地するなど、快適な住環境にあるまちとして市内外からも高く評価されています。

これは、昭和38年に「環境の保全・浄化」を図り、文教住宅都市として発展していく決意を述べた先人達の努力の賜物です。私たちはこの精神を引き継ぎ、市民・事業者・行政の参画と協働による環境学習を通じた持続可能なまちづくりを進めるため、平成15年12月、環境学習都市宣言を行いました。

本市の環境学習の中心である「エコカード・エコスタンプシステム」は小学生を対象とした「EWCエコカード」に加え、幼児向けの「ちきゅうとなかよしカード」や中学生以上を対象とした「市民活動カード」を設け、充実した仕組みとなりました。また、地域に根ざした環境活動推進組織であるエココミュニティ会議では各地域に応じた特色のある活動を行うなど、環境学習を通じた持続可能なまちづくりが根ざしてきたと実感しています。

持続可能なまちづくりを進めるためには、東日本大震災を契機としたエネルギー問題や、生物多様性の保全、ごみ問題など、私たちにはまだまだ解決しなければならない課題があります。

また、地球温暖化などにも代表される環境問題については、私たちは被害者であるとともに加害者にもなる可能性があり、その解決への取り組みには市民・事業者などの皆様のご協力が欠かせません。

この記念誌は環境学習都市宣言の意義や10年間の市民・事業者・行政などの取り組みを紹介するとともに、次の10年、さらに50年後の西宮市を皆様と考えるべく作成したものです。今一度、皆様が環境学習都市宣言の理念を学び、実践するきっかけとなれば幸いです。

平成26年3月

西宮市長 河野昌弘



# 環境学習都市宣言10周年記念 環境まちづくり フォーラム

～子どもたちと学ぶ環境学習～

環境学習都市宣言 10 周年記念である今回のフォーラムでは、  
「子どもたちと学ぶ環境学習」をテーマに開催され、  
市内各地から環境に関心を持つ約 160 名の参加がありました。



今津小学校の児童による発表の様子



## プログラム

【日時】 平成 26 年 2 月 23 日 (日) 13:00~16:30

【場所】 西宮市役所東館大ホール

【内容】 1. オープニング ～子どもたちの取り組み発表～

■ コメンテーター 矢野 裕俊 氏 (武庫川女子大学 文学部教育学科 教授)

2. ポスターセッション ～市内で行われている環境活動を展示します!～

3. パネルディスカッション ～未来の「環境学習都市にしのみや」に向けてできること～

■ コーディネーター 小川 雅由 氏 (NPO 法人子ども環境活動支援協会 理事・事務局長)

■ パネリスト 泉 桂子 氏 (西宮市 PTA 協議会 副会長)

泉 明子 氏 (平木エココミュニティ会議メンバー)

赤澤 健一 氏 (株式会社リリーフ 代表取締役社長)

矢野 裕俊 氏 (武庫川女子大学 文学部教育学科 教授)

河野 昌弘 (西宮市長)

### オープニング

## 子どもたちの 取り組み発表



オープニングでは、コメンテーターによる環境学習の重要性についての講演の後、今津小学校、甲東エココミュニティ会議、神戸女学院大学の環境学習の取り組みの発表が行われました。2年連続で全

員が「アースレンジャー」に認定された今津小学校の元気いっぱい  
の発表、地域と中学生が連携し、夏祭りにおけるごみ分別の取  
組みを発表した甲東エココミュニティ会議、地産地消をテーマとし  
た子ども向けの農業イベントを企画・実行した神戸女学院大学。ど  
の発表も、それぞれ目標やテーマをもち、熱心に環境学習に取り  
組んだ様子がよく分かるものでした。会場からは「子どもたちの活  
動に刺激を受けました」

「みなさん、熱心に取  
組んでおり、素晴らしい  
と思いました」などの意  
見が出て、子どもたちの  
活動に対する関心の高さ  
が伺えました。



## ポスターセッション

市内で行われている環境活動を展示します!



ポスターセッションでは、地域団体、事業者、大学などが、日頃から行っている環境活動の取り組み内容をまとめたポスターを展示し、ポスター出展者と参加者による活

発な意見交換が行われました。写真やイラスト、図を多用したポスターは参加団体の特徴がよく表れているものばかりで、市域で行われている環境活動に理解を深めることができました。

## パネルディスカッション

未来の「環境学習都市にしのみや」に向けてできること



パネルディスカッションでは、未来の「環境学習都市にしのみや」に向けてできることをテーマに行われました。実際に地域や学校などと連携して環境活動に取り組んでいる

各パネリストの活動紹介の後、環境学習の重要性や、自然にふれることの大切さについて熱い議論が交わされ、「みなさんと一緒によりよい西宮を築いていきたい」という市長の言葉で締めくくりました。



# 環境学習都市 にしのみや





# 西宮市の環境

西宮市は、  
山・川・海とつながった、  
豊かな自然環境が魅力のまちです。

西宮市は、兵庫県の南東部、大阪と神戸両市のほぼ中間に位置し、気候は温暖で恵まれた自然条件を有しています。雄大な六甲山をはじめとする山、大小さまざまな川、あらゆる生き物の憩いの場となっている海には、それぞれの特性が表れた貴重な生態系が存在し、西宮市の自然環境を学び守る場や活動が多数あります。

## 1 甲山自然環境センター

西宮における山の学習拠点。甲山周辺の豊かな自然環境を保全し、市民の自然体験や環境学習活動を推進するために設置しています。



## 2 北山緑化植物園

(園内には植物生産研究センターもあります)

都市緑化や家庭園芸のモデルとなる、多彩な花壇が目を引く施設。植物に関する展示や教室などを通じて情報発信を行っています。



## 3 甲子園浜自然環境センター

阪神間では唯一、自然の砂浜・干潟・磯がある甲子園浜に面する海の学習拠点。ミニミニ水族館や渡り鳥の観察コーナーなどがあります。



## 4 環境学習サポートセンター

地域・学校・事業所などにおける環境学習活動のサポート施設であり、川の学習拠点。相談コーナーや環境関連図書閲覧コーナーなどがあります。



## 5 植物生産研究センター花工房

西宮市オリジナル植物をはじめ、市内緑化用の花苗を生産・供給する施設。地域緑化活動に対する支援を行うほか、園芸に関する教室なども開催しています。



## 6 貝類館

貝類専門の博物館。「みてきてふれて」楽しむことを目的に、2,000種・5,000点の貝を分かりやすく展示しています。





### 有馬川

有馬温泉の塩分が流れ込むため、川魚の種類は少ないですが、ホタルが多く生息しています。

### 湿原



ハッチョウトンボ

### 山



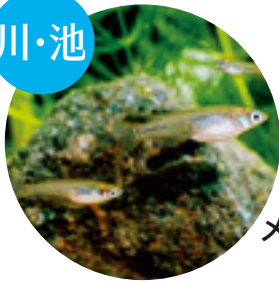
ヒメヘビイチゴ



### 甲山

六甲山の南東に位置する山。湿原や観察池などがあり、貴重な生態系が観察できる場所です。

### 川・池



メダカ

### 剣谷自然保護地区 (剣谷湿原)

### 甲山 生物保護地区

### 仁川自然保護地区

### 川



ゲンジボタル



### 大池

深みから湿地までさまざまな水辺があり、フナやトンボなど多くの生き物が生息しています。

### 1 甲山 森林公園

### 2

### 4 津門川

### 3

### 6

### 5

### 甲子園浜 生物保護地区

### 海



チュウシャクシギ



### 甲子園浜

関西でも有数の野鳥の飛来地として、国から鳥獣保護区特別保護地区に指定されています。

### ハマヒルガオ



### 海浜



# 環境学習 都市宣言

平成 15 年、市民・事業者・行政の  
参画と協働による環境学習を通じた  
持続可能なまちづくりを進めていくことを目標とした  
「環境学習都市宣言」を全国に先駆けて行いました。

昭和 38 年  
(1963)

文教住宅都市宣言

昭和 58 年  
(1983)

平和非核都市宣言

平成 15 年  
(2003)

環境学習都市宣言



持続可能な社会システムの構築



# 西宮市環境学習都市宣言

いま、地球は危機に瀕しています。これまでの社会経済活動や私たち人間のくらしが、地球温暖化や砂漠化などの問題を引き起こし、自らの生存基盤でもある環境を脅かしています。

西宮市では、市民が主体となって、六甲山系の緑の山並み、武庫川・夙川などの美しい河川、大阪湾に残された貴重な甲子園浜・香櫨園浜をはじめとした豊かな自然を守るとともに、公害問題にも取り組むなど、良好な環境をもつ都市を目指してきました。また、阪神・淡路大震災の体験を通じて、自然の力の大きさとその中で生かされている私たちの存在を改めて学びました。

西宮の環境を、そして地球の未来を次世代に持続可能な状態で引き継いでいくためには、私たち一人ひとりが社会のありかたやくらしを見直さなければなりません。

環境学習とは、私たちのくらしが自然にどう支えられ、自然をどう利用してきたかを考え、環境に対する理解を深め、自然・歴史や文化・産業・伝統といった地域資源を活用しながら、地域や地球環境との望ましい関係を築いていくために学びあうことです。

私たちは、世代を超えて、家庭・地域・学校・職場などの様々な場所で、市民・事業者・行政の協働によって、人と人の新しい交流を生み出し、環境学習活動を支えるしくみをつくっていきます。

西宮に住み、学び、働くすべての人々が、文教住宅都市宣言（1963年）、平和非核都市宣言（1983年）の精神とあゆみを再認識し、環境学習を軸とした21世紀の持続可能なまちづくりを進めることをここに宣言します。

## 行動憲章

私たち西宮市民は、参画と協働の環境学習を通じて、21世紀の世界に誇ることのできる持続可能な都市を実現します。

1. 私たちは、自然のすばらしさを体験し、歴史、文化や産業と環境との関わりを学びあい、環境に配慮した行動を実践できる市民として育ちます。
2. 私たちは、市民・事業者・行政・各種団体・NPOなどとのパートナーシップの精神に基づいて、地域社会に根づいた環境活動を進めます。
3. 私たちは、くらしと社会を見直し、資源やエネルギーを大切にされた循環型都市を築きます。
4. 私たちは、健康で文化的なくらしの中で、人と自然、人と人々が共生する、公正で平和な社会を実現します。
5. 私たちは、すべての生物が共存できる豊かな地球環境を次世代に引き継ぐため、環境学習を通じ、世界の様々な地域の人々とのネットワークづくりを行います。

（平成15年12月14日）

# 推進体制

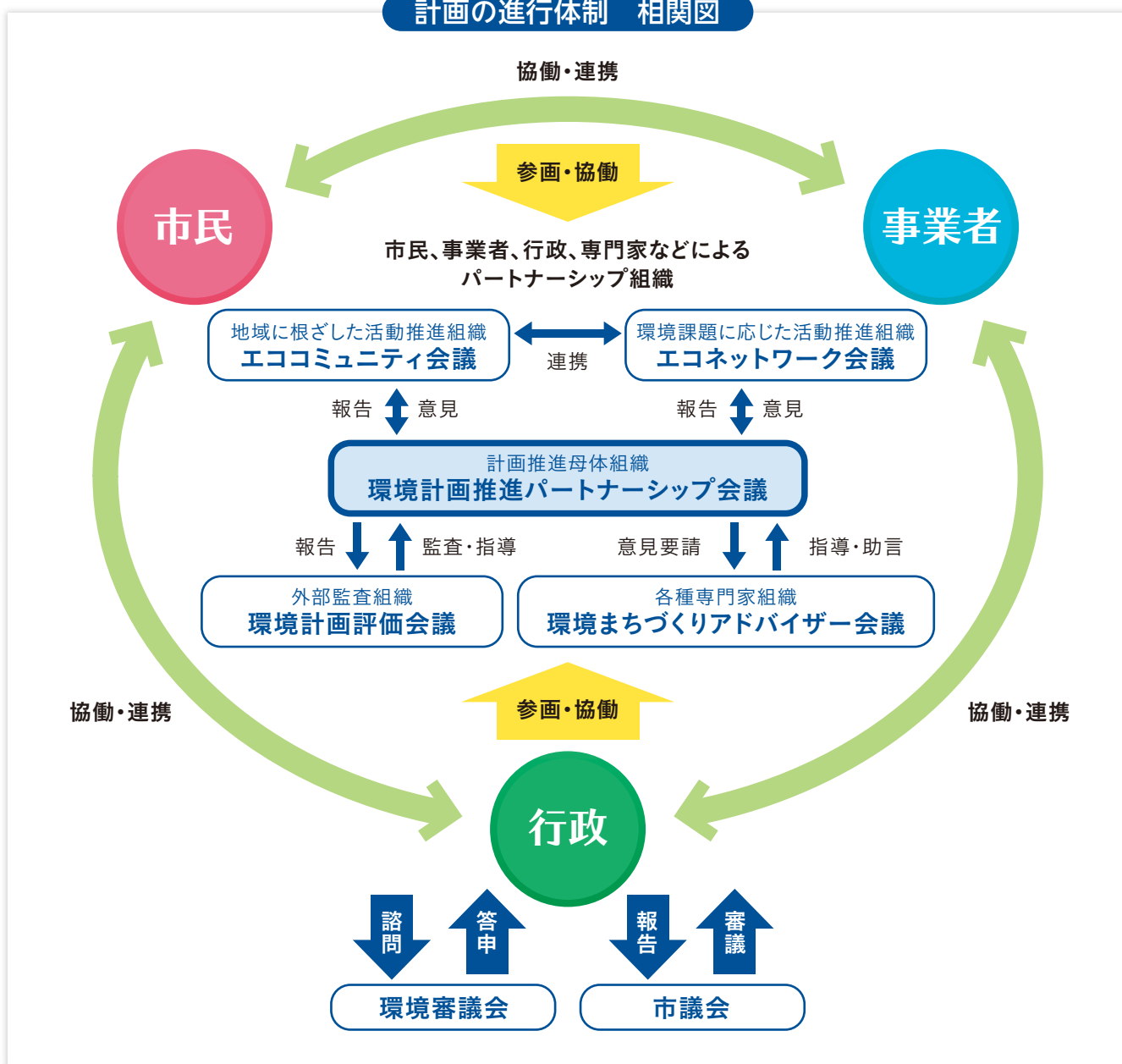
## 西宮市新環境計画

平成 17 年、環境学習都市宣言の理念を具体的に実現していくための計画として、西宮市新環境計画を策定しました。この計画は、西宮市の豊かな自然環境や恵まれた文化的環境など、地域特性を生かした総合的な環境づくりを推進する基本計画であり、環境学習都市宣言の 5 つの行動憲章を基本目標としています。

### 望ましい環境像

**人を育み、人が育む 環境学習都市・にしのみや**  
～共生と循環のところで次代につなぐ 山のみどりとあおい海～

### 計画の進行体制 関連図



## 推進体制

計画に掲げる目標を達成するためには、市民・事業者・行政の各主体がそれぞれの役割や責任を果たしていくこと、そして各主体が協働・連携して進めていくことが必要となります。新環境計画では、行政が主導するのではなく、参加者自らの西宮市の環境を考える姿勢を重視する体制を取り入れています。各会議とも、設置の段階から、市民・事業者・行政の協働で運営し、対等な立場で活発な活動を展開しています。



### ■ 環境計画推進パートナーシップ会議

新環境計画の推進母体組織です。市民・事業者・専門家・行政で構成されており、望ましい環境像に向けて、環境目標を達成するための各種実行計画の策定や目標数値の決定、計画全体の進捗状況の管理、継続的な環境改善に向けた方針決定などを行います。



### ■ 環境計画評価会議

計画の進捗状況や成果について、毎年、定期的に監査し、改善指導を行う組織で、市の環境マネジメントシステムが有効に機能しているかをチェックする外部監査の役割も担います。外部監査の結果や改善事項については、環境計画推進パートナーシップ会議に報告され、事業内容へ反映される仕組みとなっています。



### ■ エココミュニティ会議

地域に根ざした新環境計画の推進を図るため、市内の中学校区を活動の基本単位として地域が自主的に設置する推進組織です。地域において環境や福祉、教育、広報などの分野で活躍している市民や、環境に関心のある地域団体、事業者、市職員など、地域の実情に応じてさまざまな主体により構成されます。各エココミュニティ会議では、それぞれの地域の環境特性を踏まえたテーマを設定し、活動しています。

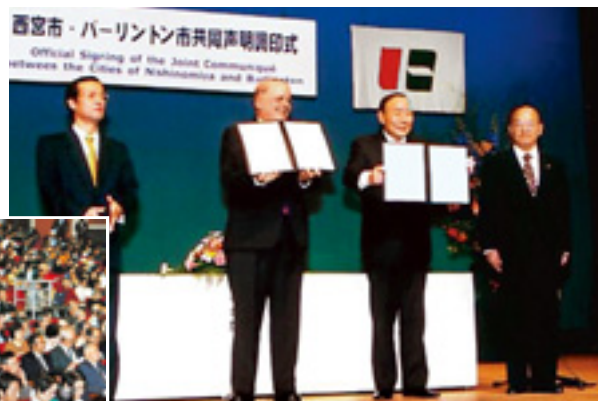


# 協働で歩んだ10年

## 1 環境学習都市宣言 記念シンポジウムの開催

[平成15年度(2003)]

環境学習都市宣言を記念して開催したシンポジウムでは、講演などのほか、米国バーモント州バーリントン市と、持続可能なまちづくりをともに進めていくことを表明し、共同声明調印式を行いました。



## 年表

### 平成15年度

- 環境学習都市推進市民会議設置
- 市民自然調査の実施
- 剣谷自然保護地区指定
- 環境審議会 環境計画専門部会設置
- 環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律施行
- ① 環境学習都市宣言記念シンポジウムの開催
- ② 環境学習都市宣言
  - ISO14001の認証取得の更新
  - パートナーシッププログラム制度の策定
  - 地球温暖化対策実行計画策定

### 平成16年度

- 旅館業、風俗営業及び店舗型性風俗特殊営業等の用途に供する建築物の建築等の規制に関する条例施行
- ③ 甲山自然学習館オープン
- 「ごみ減量等推進員会議」「西宮市環境衛生協議会」「西宮市消費者団体連絡会」「西宮消費者協会」の四者共催による「買い物袋持参実行委員会」によるマイバッグキャンペーンを開始
- ④ 西宮市新環境計画策定
- ⑤ 環境学習都市宣言こども版行動憲章の策定
- 市役所本庁舎に屋上庭園を整備
- 仁川ピクニックセンター(約32ヘクタール)及び阪急仁川植物園(約6ヘクタール)を阪急不動産株式会社より寄付を受ける(現在の「仁川緑地」)
- 「自治体環境グランプリ」NPO 法人こども環境活動支援協会(LEAF)と合同で受賞



## 4 西宮市新環境計画策定

[平成16年度(2004)]

環境学習都市宣言の理念を具体的にまちづくりに反映するため、新環境計画を策定しました。市民・事業者・行政の参画と協働による推進を重視しています。



## 5 環境学習都市宣言 こども版行動憲章の策定

[平成16年度(2004)]

次世代を担う子どもたちに、西宮市の環境を未来へ残していくことの大切さや、できることを伝えていくため、「こども版行動憲章」を策定しました。分かりやすい言葉でまとめ、子どもたちの環境活動の指針となっています。

## 2 環境学習都市宣言

[平成15年度(2003)12月]

これまでの「文教住宅都市宣言」の基本理念をさらに発展させ、環境学習を通じた持続可能なまちづくりを進めていくことを目標に、全国初の環境学習都市宣言を行いました。



西宮市政ニュース  
平成15年(2003)4月10日号

西宮市民の地域情報誌「宮っ子」  
平成15年(2003)249号



## 3 甲山自然学習館オープン

(当時の名称「ビジターセンター」)

[平成16年度(2004)]

西宮市のシンボルでもある甲山周辺の豊かな自然のすばらしさや、それらを守る大切さを広く伝えていくために、設置しました。建物は環境にやさしい自然エネルギーを使用しています。



### 平成17年度

- 西宮市環境基本条例施行
- 快適な市民生活の確保に関する条例の改正施行
- 自然と共生するまちづくりに関する条例施行
- 甲山自然の家、甲山教育キャンプ場、社家郷山教育キャンプ場が教育委員会から環境局に移管され、甲山自然学習館を含め「甲山自然環境センター」としてオープン
- 地球温暖化防止推進事業所の登録開始
- ⑥ 環境学習ルームが移転し、環境学習サポートセンターとしてオープン
- 第1回環境計画推進パートナーシップ会議開催
- エコアクションカード事業開始
- エココミュニティ会議発足に向けたエココミュニティ会議体験ワークショップの開始(～平成18年2月)
- 西宮市地球温暖化防止講演会開催
- 「循環・共生・参加まちづくり表彰」受賞(環境大臣表彰)
- ⑦ 甲子園浜生物保護地区指定
- 持続可能な開発のための教育(ESD)検討委員会(エコネットワーク会議)発足
- 西宮市初のエココミュニティ会議として学文エココミュニティ会議発足
- 甲山自然環境センター 指定管理者制度を導入



## ⑥ 環境学習ルームが移転し、 環境学習サポートセンターとしてオープン

[平成17年度(2005)]

環境学習活動を多方面から支援し、情報交換の場となる施設としてオープンしました。市内の河川水路に生息する生き物を水槽展示したミニミニ水族館と EWC 事務局が設置され、地域に根ざした活動支援拠点をめざしています。

※EWC:地球ウォッチングクラブ・にしのみや



## ⑦ 甲子園浜生物保護地区指定

[平成17年度(2005)]

貴重な自然環境を有する甲子園浜の一部約10ヘクタールを甲子園浜生物保護地区として指定しました。シギやチドリ類が飛来する4～5月は、その生態系を保護するため立ち入りを禁止しています。



**8 ISO14001の認証返上、  
西宮市独自の環境マネジメントシステムの構築**

**[平成18年度(2006)]**

環境学習都市宣言、新環境計画の策定などを踏まえ、平成13年(2001)3月に取得したISO14001の認証を返上し、独自の環境マネジメントシステムに移行しました。



**9 西宮市地球温暖化防止講演会開催**

**[平成19年度(2007)]**

「ツバルから考える地球温暖化」をテーマに、写真家の遠藤秀一氏、ツバル国のアピネル・ティリ氏による講演会を開催しました。温暖化の影響により海に沈んでしまうといわれているツバルの現状を知り、地球温暖化・環境保全について考える機会となりました。



**平成18年度**

- 甲子園浜生物保護地区の立ち入り制限開始(4~5月)
- 市制80周年記念「エコツアーガイドブック」発行
- 「西宮市における既存戸建住宅省エネルギー推進事業」実施
- 浜脇・香櫨園エココミュニティ会議発足
- 環境レポート作成
- 塩瀬エココミュニティ会議発足
- 甲東エココミュニティ会議発足
- ISO14001の認証返上、西宮市独自の環境マネジメントシステムの構築
- ESD推進協議会発足(2年間)

**平成19年度**

- 「ちきゅうとなかよしカード」事業試行開始
- 生活協同組合コープこうべと西宮市がレジ袋削減協定に調印
- 春風エココミュニティ会議発足
- 9 西宮市地球温暖化防止講演会開催
- 「ふるさとウォーク」実施
- 平木エココミュニティ会議発足
- 10 第1回環境まちづくりフォーラム開催
- 第二次地球温暖化対策実行計画策定
- 西宮市ごみ減量推進計画「チャレンジにしのみや25」策定
- 仁川自然保護地区指定

**平成20年度**

- 11 中核市移行
- 7事業所と西宮市で環境保全協定を締結
- ひょうご・こども環境会議開催
- 個人住宅の壁面・屋上緑化に対する助成を開始
- 「企業の森づくり活動への取り組みに関する協定」生活協同組合コープこうべ、兵庫県、西宮市、(社)兵庫県緑化推進協会で締結
- 快適な市民生活の確保に関する条例の改正施行(歩行喫煙の規制)
- 浜甲子園エココミュニティ会議発足



**12 消費者、市内食品系スーパーマーケットと  
西宮市の三者による  
「西宮市レジ袋削減協定締結式」開催**

**[平成20年度(2008)]**

ごみ減量だけでなく、市民のライフスタイルや事業者のビジネススタイルをより環境にやさしいものへと転換していくため、ごみの減量・資源化を推進する取り組みの一つとして、協定を締結しました。



**13 環境学習都市宣言5周年記念・  
第2回環境まちづくりフォーラム開催**

**[平成20年度(2008)]**

環境学習都市宣言から5年を迎えた記念として環境まちづくりフォーラムを開催しました。5年間の総括と今後の展望と題した講演会やポスターセッションなどが行われました。



## 10 第1回環境まちづくりフォーラム開催

[平成19年度(2007)]

市民・事業者・行政による1年間の環境活動を一堂に会して発表する場として開催しました。パネルディスカッションや講演会、事例発表などを通じて、環境活動への理解を深めました。



## 11 中核市移行

[平成20年度(2008)]

豊かな自然環境や交通の利便性など優れた特性を持ち、子育て世代を中心に市民の増加が続いている西宮市は、中核市に移行しました。阪神間の中核都市として、さらなる西宮市の発展に取り組んでいます。



### 平成21年度

- 都市緑化施策に対し、第28回緑の都市賞内閣総理大臣賞受賞
- 12 消費者、市内食品系スーパーマーケットと西宮市の三者による「西宮市レジ袋削減協定締結式」開催
- 甲陽園エココミュニティ会議発足
- 高木エココミュニティ会議発足
- 13 環境学習都市宣言5周年記念・第2回環境まちづくりフォーラム開催
- 甲子園口エココミュニティ会議発足
- 神原エココミュニティ会議発足

- 西宮市参画と協働の推進に関する条例施行
- 鳴尾東エココミュニティ会議発足
- 山口エココミュニティ会議発足
- 上ヶ原南エココミュニティ会議発足
- 用海エココミュニティ会議発足
- 大社エココミュニティ会議発足
- 第3回環境まちづくりフォーラム開催
- 高須西(現:高須)エココミュニティ会議発足
- 14 持続可能な地域づくりECOプラン策定

### 平成22年度

- 「エコアクションカード」が「市民活動カード」に名称変更
- 甲山309(みわく)プロジェクト除幕式
- 15 住宅用太陽光発電システム補助制度の開始
- 西宮フラワーキャラバンin塩瀬開催(東山台南公園、ナシオンホール)
- 第4回環境まちづくりフォーラム開催
- 第1回エココミュニティ会議交流会開催
- 東日本大震災



## 14 持続可能な地域づくりECOプラン策定

[平成21年度(2009)]

地球温暖化の主な原因とされる人為的に発生する温室効果ガスを、総合的・計画的に削減するための施策や指針を示した計画を策定しました。



## 15 住宅用太陽光発電システム補助制度の開始

[平成22年度(2010)]

地球温暖化対策の一環として、温室効果ガス削減を目的に、居住する住宅に太陽光発電システムを設置する市民に対して補助金を交付する制度を設けました。

**16 環境講演会  
EWC事業20周年記念シンポジウム開催**

[平成23年度(2011)]

平成4年から始まったEWC事業が20周年を迎えることを記念してシンポジウムを開催しました。講演や環境学習活動の展示、パネルディスカッションなどを行い、EWC事業の20年の歩みを振り返りました。



**17 第5回環境まちづくりフォーラムと  
第55回西宮市環境衛生大会を合同開催**

[平成23年度(2011)]

「みんなで考える人と自然の共生～海とわたしたちの関わり～」をテーマにシンポジウムを開催しました。日本貝類学会の奥谷喬司氏と東京海洋大学のさかなクンを講師に迎えた講演会では、自然との共生について楽しく学びました。



平成23年度

- 16 環境講演会 EWC事業20周年記念シンポジウム開催
- 緊急節電対策の取り組み開始
- 西宮フラワーキャラバン in 山口開催(有馬川緑道・山口ホール)
- 鳴尾西エココミュニティ会議発足
- 17 第5回環境まちづくりフォーラムと第55回西宮市環境衛生大会を合同開催
- 第2回エココミュニティ会議交流会開催
- 18 未来につなぐ 生物多様性にしのみや戦略策定

平成24年度

- 夏場の節電対策講習会及び熱中症対策講座の開催開始
- 今津エココミュニティ会議発足
- 西宮フラワーキャラバン in 名塩開催(名塩南児童遊園)
- 東部総合処理センター焼却施設竣工式開催
- その他プラの資源収集開始(国道2号より南)
- 第6回環境まちづくりフォーラム開催
- 第3回エココミュニティ会議交流会開催

平成25年度

- 19 市民自然調査の実施
- 西宮フラワーキャラバン in 山口開催(有馬川緑道)
- 緑のカーテンコンテストを実施
- その他プラ分別回収開始(市内全域)
- 三宣言周年記念コンサート&まちづくり夢トーク開催
- 環境学習都市宣言10周年
- 環境学習都市宣言10周年記念・第7回環境まちづくりフォーラム開催
- 第4回エココミュニティ会議交流会開催
- 西宮市再生可能エネルギー・省エネルギー推進計画策定



**18 未来につなぐ  
生物多様性  
にしのみや戦略策定**

[平成23年度(2011)]

人間活動や地球温暖化などの影響から、豊かな自然環境や生態系を守るため、環境保全分野で実施してきた取り組みを整理し、市民・事業者・行政が共有できる基本指針となるよう、策定しました。



**19 市民自然調査の実施**

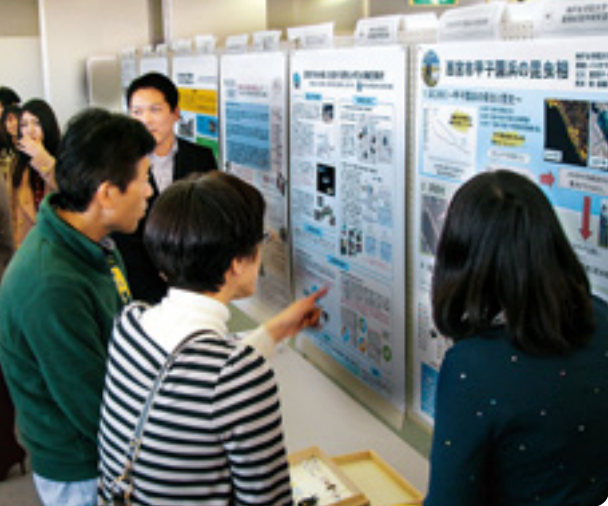
[平成25年度(2013)]

環境学習都市宣言10周年を記念し、町中や水辺で見かけた対象の生き物について、発見した場所の報告をする市民自然調査を実施しました。結果はホームページで発表しています。



# 西宮 ACTION!





貴重な生態系が存在する西宮市。市民・事業者・行政が、それぞれ協働・連携の視点を持ち、活発な環境学習活動を一年を通じて展開しています。大切な環境を思う心は皆一緒。だからこそ、協働・連携による活発な環境学習活動は、「環境学習都市にしのみや」を築く源となっているのです。そして、それは西宮市だけでなく、日本、地球規模での必要不可欠な力といえるのです。

# 大切な環境を守るのは 私たち西宮市民

市民・事業者・行政がともに取り組む



## 5つの行動憲章

**学び  
あい**

### 学びあい

私たちは、自然のすばらしさを体験し、歴史、文化や産業と環境との関わりを学びあい、環境に配慮した行動を実践できる市民として育ちます。

**参画  
協働**

### 参画・協働

私たちは、市民・事業者・行政・各種団体・NPOなどとのパートナーシップの精神に基づいて、地域社会に根づいた環境活動を進めます。

**循環**

### 循環

私たちは、くらしと社会を見直し、資源やエネルギーを大切にしたい循環型都市を築きます。

**共生**

### 共生

私たちは、健康で文化的な暮らしの中で、人と自然、人と人が共生する、公正で平和な社会を実現します。

**ネット  
ワーク**

### ネットワーク

私たちは、すべての生物が共存できる豊かな地球環境を次世代に引き継ぐため、環境学習を通じ、世界の様々な地域の人々とのネットワークづくりを行います。



# 市民 の取り組み

西宮市で暮らす約 48 万人の市民は、  
活発な環境活動に取り組んでいます。

## 森林・湿原 サポーター

学び  
あい 参画  
協働 共生

森林・湿原の保全活動の担い手となる人材を育成するための講座を開いています。平成24年度は、環境分野の専門家のもと、森林・湿原の役割や保全について実践的な講義を交えながら学び、講座修了者は、森林・湿原の保全活動や体験活動の指導などで活躍しています。



## わがまち グリーン大作戦

参画  
協働 循環

まちの美化に努めるとともに、地域への愛着を深めるため、市内の一斉清掃を毎年 6 月と 12 月に実施しています。



環境衛生協議会やごみ減量等推進員会議、自治会や学校など、市民が一丸となって、道路や公園、側溝などを清掃し、まちの美化につなげています。平成 24 年度は延べ 1,059 団体、約 72,000 名の幅広い年代の市民が参加、約 166 トンのごみを回収しました。



## にしのみや ふるさとウォーク

学び  
あい 参画  
協働

全ての人々や生き物にとって幸せな、持続可能な未来のあり方を考えるきっかけづくりとして開催しています。コースに設置したチェックポイントでは、西宮の環境や福祉、平和、防災などに関するクイズを出題。まちの魅力を再発見できる場となっています。



## 花と緑の まちづくりリーダー

学び  
あい 参画  
協働 共生

「花と緑のあふれるまちづくり」の推進を図るため、「花と緑のまちづくりリーダー」を養成しています。任命されたリーダーは、率先して緑化活動に取り組むとともに、技術指導や助言を行ったり、「フラワーフェスティバル in 西宮」の緑化イベント運営にも携わっています。



# 事業者 の取り組み

市内の事業者は、自分たちの得意な分野に「環境」の視点を取り入れ、特色ある活動を行っています。



## 金田運輸株式会社 [エコ車で学校給食配送事業]

循環

西宮市内全ての小中学校に給食食材を、CNG天然ガス車やハイブリッド車で運び、運転手のエコドライブと併せて環境負荷の低減に取り組んでいます。また、一度で配送できるようトラックの荷台を改装することで、校内乗り入れ回数の減少による事故回避や排気ガス削減を実現。環境・安全



はもちろん、トライやるウィークも実施し、子どもの成育に重点を置いた取り組みは、国のモデル事業にもなっています。



参画  
協働 循環

## 買い物袋持参運動



ごみ減量と自然環境の保護や地球温暖化防止にもつながる取り組みです。市内全23の駅前や商店街など人の多く集

まる場所で、啓発用ポケットティッシュを配布。平成24年度のキャンペーンでは、合計379名の参加者が、レジ袋削減やマイバッグ持参を呼びかけました。広く市民に啓発を継続的に行うことで、より一層レジ袋削減を含めたごみ減量をめざしています。



## コラム1

♥ マークは、パートナーシッププログラムの制度を活用した事業です。

## パートナーシッププログラム

市民・事業者・行政のパートナーシップによる環境学習活動を広く社会全体に伝えていくことを目的とした制度です。市が実施する事業へ事業者などが協力・協賛する場合のほか、事業者などが行う特色を生かした環境学習活動を市が応援する場合があります。平成24年度は11団体、17のプログラムが実施されました。





**伊藤ハム株式会社**  
[クリーンアップin甲子園浜]

学び あい 参画 協働 共生

NPO 法人海浜の自然環境を守る会や周辺地域の自治会の人々とともに、自然豊かな地元の浜辺を次世代に残



そうと、甲子園浜のビーチクリーンアップ活動を行っています。10年目を迎える平成24年度は、1時間の清掃活動で、可燃物約280キログラム、不燃物約20キログラムのごみを収集。人々の憩いの場としても人気である甲子園浜の環境美化につなげています。



**株式会社リリーフ**  
[こども農業塾]

学び あい 参画 協働 共生

平成23年度から、市内の小学校4年生から6年生の30名を対象に、自然や食べ物に関わるさまざまなチャレンジを通じて、その大切さを学ぶ「こども農業塾」を年4回開催しています。手作業での田植え・稲刈り体験をはじめ、野菜の植え付けや収穫、堆肥づくりなど、日常生活の中では経験できない体験をすることで、自然の大切さを伝えています。



コラム2

♣マークは、西宮市地球温暖化防止推進事業所に登録している事業所です。

**西宮市地球温暖化防止推進事業所**

市内でさまざまな地球温暖化防止活動を行っている事業所を「西宮市地球温暖化防止推進事業所」として登録し、市のホームページなどで紹介しています。現在、市内全域の事業所や学校などが登録しており、多様な取り組みの紹介や情報発信を行っています。この取り組みは、西宮市だけでなく、地球規模での環境について考える一助となっています。



西宮市 HP

くらしの情報

環境・緑化・衛生

地球温暖化防止推進事業所

# 行政 の取り組み

パートナーシップの一翼を担う行政。  
協働による環境活動に取り組むとともに、  
効率的・効果的な施策・事業を進めています。

循環

## いきいきごみ展

使用可能な粗大ごみを再生し希望者に提供するイベントです。職員によって点検・修理されたものは、自転車やキャリーケース、家具など実にさまざま。希望者を募り、抽選の上、当選者に無料提供されるシステムです。粗大ごみとして処分するのではなく、再利用していくことで、市民のリサイクルなどへの関心を高めるとともに、ひいてはごみ減量へとつなげています。



参画  
協働 循環

## チャレンジ にしのみや25

大量消費社会から循環型社会へ転換し、環境学習都市宣言の精神を具体化するため、西宮市ごみ減量推進計画“チャレンジにしのみや



リークルくん

25”を策定。平成30年度までに、1人あたりのごみ排出量を25%減量（平成17年度基準）することを目標に、さまざまな「ごみダイエット」



に取り組むほか、小学校を対象に、子どもたちへの出前授業も開催し、ごみの減量・再資源化の大切さを伝えています。



また、容器包装リサイクル法の施行を受け、平成25年4月より、市内全域でその他プラスチック製容器包装の資源収集を開始。さらに、ごみ減量化への取り組みを強化しています。





## フラワー フェスティバルin西宮

学び  
あい 参画  
協働 共生



花や緑を愛し育てることを通じて、地域コミュニティを育み、互いに協力し、「心のかよった緑あふれるまちづくり」

をめざして開催しています。平成24年度は延べ8,800名の人々が来場しました。ミニ花壇や寄せ植えなどを出展し、培われた園芸技術を顕彰し合うガーデンコンペや、講演会、園芸教室、西宮市オリジナル植物の販売など、多くの花と緑にふれることのできるイベントを楽しみました。



### 西宮フラワーキャラバン

地域開催型の緑化イベントとして西宮フラワーキャラバンも開催しています。西宮市オリジナル植物の展示や販売をはじめ、花と緑のまちづくり事例の紹介、各種緑化助成制度の紹介・受付や園芸教室などを行っています。



## さし芽・鉢上げ教室

学び  
あい 共生

「エンジェルス・イヤリング」や「プレランサ」など、西宮市で誕生したオリジナル植物を教材に、さし芽によって植物



の苗を増殖し、成長後に苗を植え替える一連の体験学習です。市内小学校の児童などを対象として実施しています。学校の緑化を推進するだけでなく、自ら植物を植え育てる体験をすること



で、市全体が花と緑にあふれることへの喜びを知り、命に対する豊かな感性や緑化・環境への意識を育んでいます。



エンジェルス・イヤリング

# 三者 の取り組み

環境への取り組みは、  
市民・事業者・行政が協働で取り組むことで、  
その効果と可能性は無限大に広がります。

## 環境まちづくり フォーラム

学び  
あい 参画  
協働 ネット  
ワーク



市民・事業者・  
行政の1年間の環  
境活動を広く報告  
し、地域間・主体間  
の活動交流の促進  
や新たな活動展開

を図る場として開催しています。平成24年度は、「資源循環」をメインテーマとし、ごみダイエツトについて知る基調講演やパネルディスカッション、環境活動をまとめたポスターセッションを通じて、身近なごみの問題から地球規模の環境問題まで、深く考えることのできるイベントとなりました。



学び  
あい 参画  
協働 ネット  
ワーク

## EWC環境パネル展

環境に関する1  
年間の取り組みを  
発表する催しとし  
て、平成4年度か  
ら開催しています。  
平成24年度は、市



内小学生から大人まで498点、海外からは7カ国148点もの作品が展覧されました。模造紙や画用紙だけでなく、立体工作など、その表現はそれぞれ独創性にあふれたものばかり。環境活動が一つの枠にとらわれない可能性を秘めたものであることを表しています。



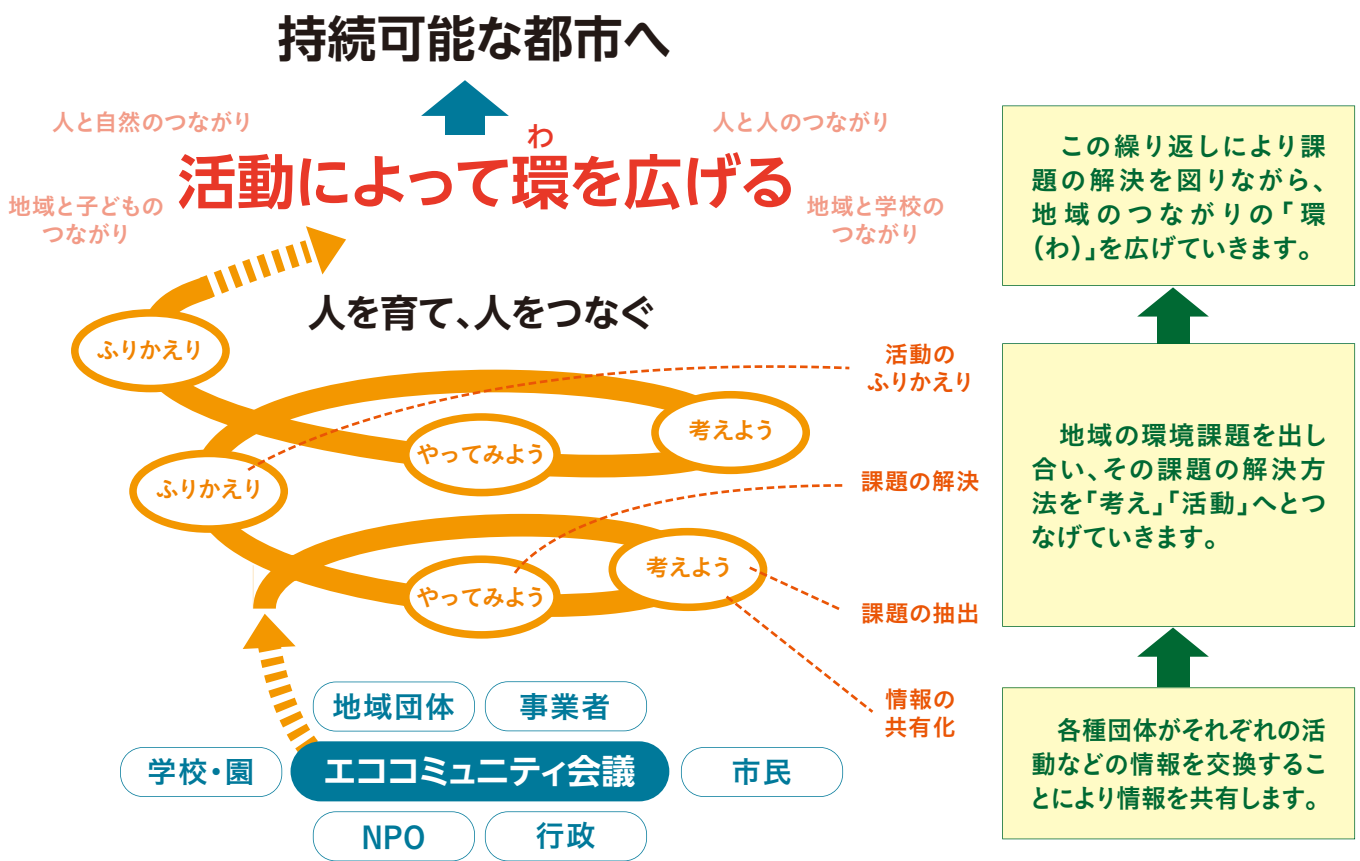


# エココミュニティ会議

環境学習都市宣言の理念を実現するために誕生したエココミュニティ会議。  
組織形成が目的ではなく、地域のさまざまな人が集まり、  
地域課題の解決に向けた話し合いや会議を続けることで次世代の育成を図っています。

## エココミュニティ会議の活動

エココミュニティ会議は、地域に根ざした環境まちづくりの推進を図るために設置された場です。各地域における環境課題について話し合い、地域の多様な団体が連携することによって、その解決をめざします。また、活動には大人から子どもまで幅広い世代に参加を呼びかけ、地域づくりを担う次世代の育成にも取り組んでいます。



## 多様な地域課題



# エココミュニティ会議交流会

現在市内で活動している各エココミュニティ会議と環境計画推進パートナーシップ会議の委員などが集まり、情報・意見交換の場としてエココミュニティ会議交流会を開催しています。EWC パネル展の見学や、情報交換会などを行い、他の地域の日頃の活動や環境についての情報交換を通じて、今後の活動の可能性を大きく広げています。



## 過去の情報・意見交換のテーマ

### 平成23年度

#### ■ 次世代、特に小学生の子どもたちに伝えるべきこと、伝えたいこと

##### 〈参加者の声〉

- 「環境学習～大人から子どもに示していきたい～」  
…自然環境を受け継いでもらいたい。
- 「自然を大切に未来に残す」  
…自然の恵みに感謝し、地域の自然を大切にすることを伝えたい。
- 「当たり前と思わない。豊かな資源とエネルギー資源」  
…自然に感謝することの大切さを伝えたい。
- 「震災の経験、社会のルール（助け合いなど）」  
…人ともへの思いやりを大切にしてほしい。
- 「人と人とのつながりを大切に、コミュニティを大切にしよう」  
…人は一人では生きていけない。誰かとつながっていることで、他人を思いやる心が育つ。
- 「地球への愛着を大切にしたい」  
…まずは、地域の自然を大切にすることから持ってもらいたい。
- 「人や自然を大切にする人間に」  
…若い人には、思いやりを持つ人に育ってほしい。

### 平成24年度

#### ■ 活動をしてよかったこと、うまくいかなかったこと

##### 〈参加者の声〉

##### よかったこと

- 小・中学生の参加が多い
- 学校との連携ができた
- 活動を通じて、人とのつながりが生まれた
- 身近な問題を取り上げることができた
- 地域と他団体、企業との協力や連携ができた
- メンバー間の役割分担が明確。コミュニケーションがうまくいっている
- 地域の歴史などを学ぶことができた
- お隣のエココミとの交流会、共催事業、協力もできた

##### うまくいかなかったこと

- 地域住民への広報、PRが難しい
- メンバー集め（人材、若年層の協力）
- 行事の日程調整に苦労した
- 行事の申込者が少ない
- 会議の欠席者が多い
- 市民活動カードの関心が低い



# エココミュニティ会議地域図

平成18年(2006)3月、市内初となる学文エココミュニティ会議が発足しました。現在(平成26年2月末時点)では、19のエココミュニティ会議が発足し、地域の課題に応じたさまざまな活動を展開しています。

<b>活動エリア</b>	中学校区を目安に、活動や人のつながりを考えて設定しています。
<b>構成メンバー</b>	市民・事業者・行政それぞれが参加しています。
<b>活動内容</b>	各地域の実情をふまえて地域課題に応じた活動を行っています。



活動の発表



稲刈り体験



省エネ活動表彰式



まち歩き



自然体験





特集

# 子ども ECOアクション!

新しい発見をしたときや成し遂げたときの達成感は、その人を大きく成長させるもの。  
西宮市の子どもたちは今、多彩な自然環境活動によって、強く大きく輝いています。

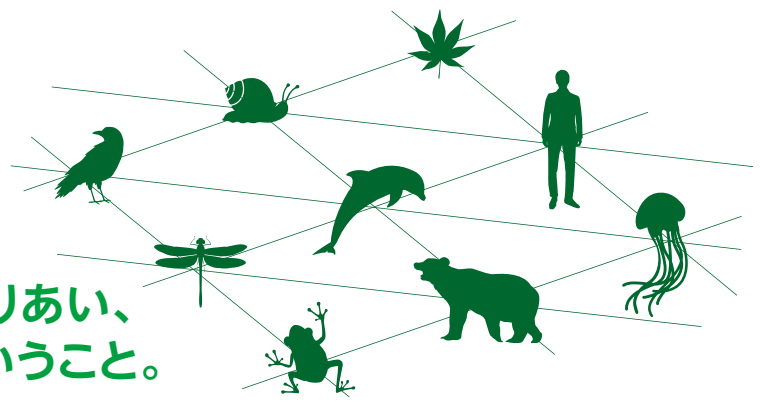


子どもの頃から、自然に親しみ、環境について考える機会を持つことで、命の大切さを知るとともに、まちへの愛着心を育むことにつながります。西宮市では子どもたちによる環境活動が活発に行われています。見て、ふれて、自ら体験し学んだことは自らの力となります。子どもたちの力はやがて、未来の西宮市を創る大きな力となることでしょう。



# ECOアクション① 生物多様性

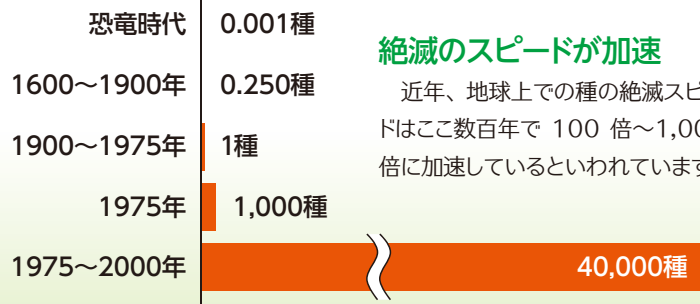
地球上全ての生き物が、つながりあい、  
ともに支え合って生きているということ。



地球は、非常に多くの生き物が生息する星です。そして、私たち人だけでなく、地球上全ての生き物は他の生き物との「つながり」を持っており、お互いに支え合いながら生きています。このバランスが維持されることで豊かな自然環境が作られているのです。

■種の絶滅速度(一年間に絶滅する種の数)

※資料：ノーマン・マイヤーズ著  
「沈みゆく箱舟」(1981)を基に作成



## 西宮市の生き物も絶滅の危機に瀕しています



カフバタモロコ



ヒメタイコウチ



サギソウ



モリアオガエル

西宮市は豊かな自然環境に恵まれており、貴重な生き物が多く生息しています。ところが、近年の地球規模での環境の変化は、西宮市の自然環境にも影響を及ぼしています。市内に生息する生き物にも、年々絶滅の危険性が高まっている種があるのです。

## 「西宮の豊かな自然を守る!」子どもたちのアクション

### 身近な生き物の生態を学ぶ メダカの学校

環境学習サポートセンターで開催されるイベント「メダカの学校」では、メダカの飼育方教室や水族館クイズ、顕微鏡コーナー、ふれあいコーナーなどを通じて、生き物の生態を学びます。平成 24 年度は、368 名が参加。身近な川の生き物について改めて知る機会となり、子どもたちは目を輝かせ楽しく学んでいました。



### 環境学習フィールド ビオトープ

ビオトープとは、生き物の生息空間のこと。市では保育所や小学校などを中心に設置を進めており、貴重な水辺の生態を確保する役割を担っています。また、子どもたちの環境学習のフィールドとしても利活用を図っており、身近な生態系を体験しながら学ぶ場となっています。



# 地球温暖化



人間の生活が豊かになる一方、その活動が原因で地球の表面温度が上昇すること。

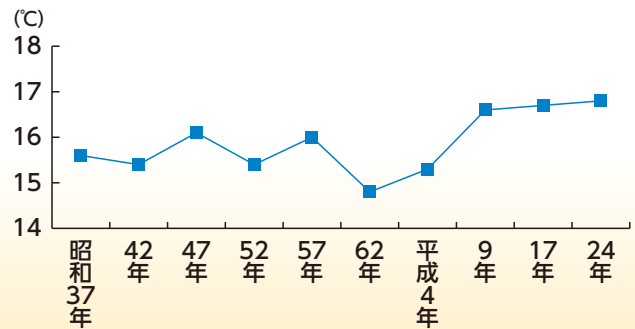
地球の気温は、太陽からのエネルギーと地球から放出される熱のバランスによって決まります。私たち人間の生活は豊かになってきましたが、それに伴い、温室効果ガスが増え続けています。この温室効果ガスが多くなると、地球の気温が上昇し、海面上昇や砂漠化、異常気象の多発など、さまざまな影響が表れます。

世界中で表れている地球温暖化のサイン。西宮市も例外ではない。

甲子園浜では、多くの野鳥が飛来し、羽を休める姿が見られます。地球温暖化によって世界的に海面上昇が進んでいくと、このような西宮市の海辺の生態系も失われていく可能性があります。

■西宮市の平均気温

※資料：西宮市



ツバル(海面上昇によって侵食される砂浜) ※環境省提供



甲子園浜

## 「地球温暖化を防ぐ!」子どもたちのアクション

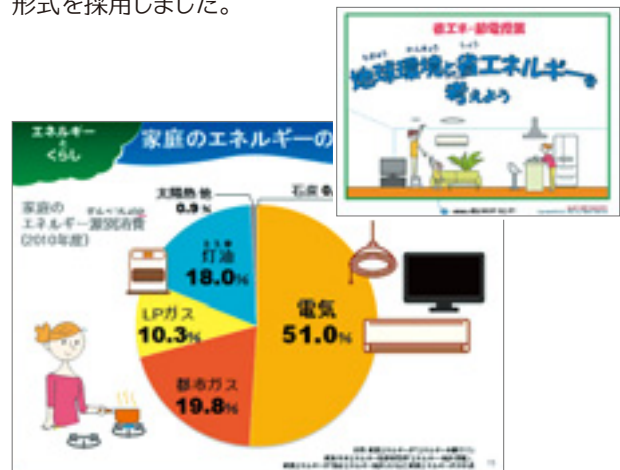
緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう

緑のカーテンとは、ツル性の植物を壁面などに這わせるように育てた植物のカーテンのこと。設置によって、平成24年8月の晴天日では、カーテン内外で7度も気温差がありました。「フラワーフェスティバル in 西宮」で子どもたちと種まきを行い、夏場の市役所は立派に育ったカーテンに覆われました。



親子で節電にチャレンジ地球を守ろう

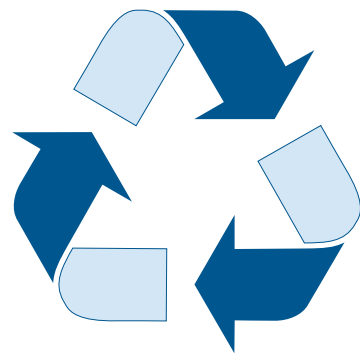
家庭や職場での節電対策、そして地球温暖化対策に取り組むきっかけ作りとして講習会を実施しました。平成25年度の講習会から、子どもと保護者が一緒に学べる形式を採用しました。



資料：一般財団法人省エネルギーセンター



# 資源循環



限りある西宮の、そして地球の資源を有効に繰り返し活用していくこと。

私たちは日常生活を送る中で、地球のさまざまな資源を活用しています。しかし、資源には限りがあります。地球と調和した豊かで住み良い生活を送るためには、限りある資源を有効に活用していくことのできる、資源循環型社会を築いていくことが大切です。

■西宮市で1年間に出るごみの量



リサイクルプラザ

## 循環型社会をつくるために[3R]

**Reduce**  
リデュース

ごみになった後のことを考え、無駄なもの・不要なものは最初から使用しないこと。

**Reuse**  
リユース

一度作られた製品をそのまま何度も繰り返し使い、ごみとなることを防ぐこと。

**Recycle**  
リサイクル

リユースできないものを、別の製品を作るための原料として再生利用すること。

## 「資源を有効活用する!」子どもたちのアクション

親子でゴミ処理の仕組みを学ぶ  
環境バスツアー

普段私たちが出しているごみが、どのように処理や処分・リサイクルされているかを親子で学ぶため、リサイクル企業や処理施設の見学を行います。平成24年度は、12組24名の親子が参加し、普段見ることができないゴミ処理の仕組みを熱心に学んでいました。



資源ごみが大変身  
親子ガラス工房

親子でリサイクルの重要性や工夫について考え、体験してもらおう場として、資源ごみであるガラスコップを使って貯金箱や風鈴を作るイベントを開催しています。平成24年度は36組79名の親子が参加。小瓶にシールやサンドブラストでデザインし、オリジナル作品を作成しました。



# 環境学習事業

## 地域と暮らしに根ざした 環境学習システム

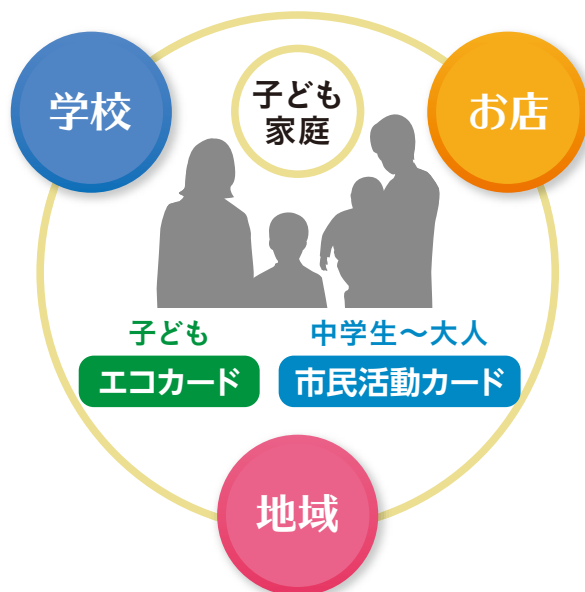
子どもたちが継続的に環境学習に取り組むことを目的にスタートした EWC 事業。いつでも、だれでも、どこでも学び合える環境学習システムに発展してきました。

西宮市では、平成 4 年から子どもたちが継続的に環境学習に取り組めるよう、「地球ウォッチングクラブ事業」が始まりました。英語標記の「Earth Watching Club」の頭文字を取り通称 EWC 事業として親しまれているこの事業は、環境庁（当時）の全国事業「こどもエコクラブ」のモデルにもなりました。その後、平成 10 年に「エコカード・エコスタンプシステム」を導入し、市内の全小学生を対象に導入しました。現在では「ちきゅうとなかよしカード」「市民活動カード」などの仕組みを導入し、幼児から大人までの全ての世代が日常生活の中で環境活動に取り組める仕組みを構築しています。

### 環境学習事業の歩み

- 平成 4年(1992) ● EWC事業開始
- 平成 5年(1993) ● EWCニュース発行
- 平成 7年(1995) ● 環境庁「こどもエコクラブ」事業開始
- 平成 8年(1996) ● 西宮セイフティ&エコガイド事業開始
- 平成10年(1998) ● エコカード・エコスタンプシステム開始
- 平成12年(2000) ● 「アースレンジャーファミリー」「エコトレード」開始
- 平成13年(2001) ● 「エコメッセンジャー」開始、「第3回こどもエコクラブアジア太平洋会議」が西宮市で開かれる
- 平成14年(2002) ● 「2011年・地球ウォッチングクラブ・にのみや」開始
- 平成15年(2003) ● 西宮市が「環境学習都市宣言」を行う
- 平成17年(2005) ● 中学生以上を対象とした「エコアクションカード」開始
- 平成18年(2006) ● 環境省「国連持続可能な開発のための教育10年促進事業」のモデル地区になる
- 平成19年(2007) ● 幼児を対象とした「ちきゅうとなかよしカード」開始
- 平成20年(2008) ● 「エコアクションカード」を「市民活動カード」に変更
- 平成23年(2011) ● EWC事業20周年

### エコカード・エコスタンプシステム



「エコカード・エコスタンプシステム」は学校、地域、お店などで環境について学んだり、環境にやさしい商品を購入したときなどにカードにエコスタンプを押していただくことができる仕組みです。私たちの日常生活は、さまざまな形で環境と深い「つながり」を持っています。しかし、その環境とのつながりに気づかず、学校、家庭、地域、職場など各場面での行動を関連付けて理解ができていないことが多いのではないのでしょうか。「EWCエコカード」「市民活動カード」はカードにスタンプを押すことを通じて、その「つながり」を目に見える形にする仕組みです。



就学前の  
幼児

## ちきゅうとなかよしカード

保育所・幼稚園で使用する幼児向けカードです。「水道の蛇口を止めた」などエコな生活習慣を身につけたり、「生き物を大切にする」など自然に親しむ活動をすると、先生からスタンプを押してもらえます。



## EWCエコカード

小学生対象のカードです。子どもたちが学校で環境について学んだり、地域の清掃活動への参加、環境にやさしい商品の購入などをすると、先生や地域・お店の方から「エコスタンプ」を押してもらえます。エコスタンプを10活動集めると「アースレンジャー(地球を守る人)」に認定されます。

### EWCサブシステム

～子どもの発達段階に応じた視野が広がる活動のしくみ～

#### アースレンジャーファミリー

小学1・2年生

学校

家族で地球にやさしい生活に取り組む活動です。子どもがアースレンジャーになり、お家の人が市民活動カードにエコスタンプを15活動集めると表彰されます。

#### エコ・メッセンジャー活動

小学3・4年生

地域

学校のクラス単位で取り組む活動です。大人からエコメッセージを集め、大人に伝えたいことなどを壁新聞にし、地域や環境パネル展で発表する活動です。

#### エコ・トレード活動

小学5・6年生

社会

学校のクラス単位で取り組む活動です。クラスでエコスタンプを集めて活動資金と交換し、社会的意義のある活動を行い、その結果を環境パネル展で発表します。

小学生



## 持続可能な地域づくり 市民活動カード

中学生以上の大人を対象とした大人版のエコカードです。環境活動や地域での社会活動、福祉、人権、平和などを考える活動をしたときに、店舗や地域団体、環境関連施設などでエコスタンプを押してもらうためのカードです。15活動、50活動と集めたスタンプの数に応じて記念品が進呈されます。



2005、2007年度の市民活動カード



2013年度の市民活動カード

中学生  
以上の  
市民

# 「人と自然」、「人と人」との つながりで取り組む環境学習

## エコツアー

自然の豊かさや大切さを感じてもらい、次世代に伝えていくために大切なことを学んでいただくため、市街地近郊にある豊かな自然にふれてもらうイベント「エコツアー」を年に数回、実施しています。

### 仁川の自然を守ろう！ 自然保護地区おそうじ大作戦！

平成24年度に開催された「仁川の自然を守ろう！自然保護地区おそうじ大作戦！」では、自然にふれてもらうだけでなく、実際に清掃活動に参加してもらい、自然環境の保全について考えていただきました。



### 咲かそう！ 広田山のコバノミツバツツジ！

平成24年度に開催された「咲かそう！広田山のコバノミツバツツジ！」では、廣田神社にまつわる歴史のお話を学んだ後、兵庫県の天然記念物に指定されているコバノミツバツツジの保全活動を行いました。



## エココミュニティ情報掲示板

エココミュニティ情報掲示板は、各エココミュニティ会議の活動状況や、西宮市民が取り組む環境などの活動を紹介するホームページです。環境に関するイベントの開催情報なども紹介されており、環境活動を通じた地域内・地域間の交流を支援する役割を担っています。



<http://info.leaf.or.jp/>

## EWCニュース

EWCニュースは、小学生たちが行った環境学習の報告や、イベント情報、エコについて学ぶことができる「エコとれーにんぐ」などを掲載・発行しています。イベント情報ではエコスタンプを押してもらえるイベントの紹介がなされ、学校や地域での環境学習のきっかけづくりにも役立っています。





# 未来への メッセージ

しぜんが  
いっぱい  
になっている

山川海、  
四季折々の  
風景が美しい街。  
西宮。

みんなが  
環境に目を向け  
ごみが無い町に

鳥や虫をたくさん  
見つけることが  
できるまち

周りを見れば  
気持ちの良い  
環境。

四季折々の  
豊かな自然に  
恵まれている

リサイクルで、  
ごみの少ない  
エコの街。

ゴミひろい、  
流木清うみ、  
武庫川クリーン  
作戦。

海や川や山に  
子ども達の声  
あふれている。

春夏秋冬、  
自然が一杯  
笑顔が一杯

# メッセージが創る 西宮の未来

環境学習活動が盛んな西宮市は、  
この先、どのようなまちになっていくのでしょうか。  
西宮市民の方々に、未来の姿を創造していただきました。

## 学ぶことは生きること 不易としての学び —環境学習都市宣言10周年に寄せて—

「地球大好き、自然大好き、人間大好き市民 EWC(地球ウォッチングクラブ) に集まれ!」「地球ウォッチング、それは暮らしと地域を足元から見直す活動」「環境活動を西宮の文化に」「環境活動を国際交流の旗印に」「環境問題は人に始まり、人とともに」「過去から学び、今を知り、未来を考える」。これらのフレーズは、環境学習都市宣言を行う背景となった1992年に始まる西宮市における環境学習活動の基本となる考え方です。

環境学習都市宣言は、環境問題を学習するためだけの宣言ではなく、悠久の昔から自然界の中で人間が習得してきた「学ぶ力」=「生きる力」を、市民がお互いに大切に学び合い、育て合う社会の仕組みを創造していくことを願ったものです。今を生きる、そして未来に生きる全ての人々と生き物が平等に生きる権利を受益できるよう、環境学習を通じた持続可能な社会システムの構築に向け更なる一歩を踏み出しましょう。



NPO法人  
こども環境活動  
支援協会  
理事・事務局長  
小川 雅由 氏



風川のオガ  
きれいにな  
っている。

自然が多い。  
住やすい。  
環境の町  
西宮

緑と笑顔に  
あふれている。

自然に  
つまれて  
安らぐまち

ホタルとじょう  
トダカが  
生息する街

犬や猫の  
糞の無い  
清潔な街。

魚が泳ぐ川と  
樹木が  
植えられた  
住宅街

みんなが  
エコ活動を  
している

安全、安心で  
きれいで  
住みよい町  
になる

不慮流行の  
環境活動が  
さらに  
広がっている!

市民皆が  
エコ活動に  
積極的である。

花が、咲きはこる  
道路脇が、  
一杯あって  
欲しい

ごみになるもの、  
無駄なものは  
買わない。

花や緑が  
いっぱい  
の街に  
なっている。

緑豊かな  
空気の清らかな  
「カンキョウ」の  
所づくり

みんなが  
ゴミをひろう  
町になっている

季節ごとに  
かわいい花が  
咲く。

毎年つばめが  
やって来る町で  
あるように!!



清らかな水  
と澄んだ空

自然をこわさず、  
ゴミを出さない町

きれいな所  
と皆さん  
ほこしい町

山も海も  
元気に  
なっている。

あふれる  
自然をいつも  
身近で  
楽しめる

自然にあふれて  
いる遊び場が  
沢山できている。

世界一  
クリーンで  
エコな都市

山と川と海  
きれいな  
西宮にしよう!

美しい自然を  
いつまでも  
守りたい

ゴミを減らす  
工夫と努力を  
続けている。

子ども達が  
元気に遊ぶ  
自然いっぱい  
の西宮

ちょっとした  
みんなの気配り  
にしよう

たった1つが  
ない地球  
みんな  
守ろう!

エコ生活を  
実践しよう。  
まわりの  
自然を守ろう。

みんなと  
自然が友達に  
なろう!

まわりの  
自然が  
あふれている



# メッセージが創る 西宮の未来

空気が  
おいしいまち

山と川と海  
光り輝く  
まち!

いつでも  
帰れるまち、  
いつまでも  
誇れるまち

山の緑と  
海の青に  
子どもの笑顔が  
映えるまち

みんなが  
エコ活動に  
取り組んで  
いる!

人と自然が  
ふれあう町  
西宮!

自然災害に  
強い町で  
あってほしい!

魚が気持ち良く  
住める  
きれいな川  
がある!

自然豊か  
な町でありたい。

自然の恵み  
みんなが暮らしたい  
西宮

## 目標を立てて地域環境を管理し、多様な環境を保全しよう

環境学習都市宣言10周年、おめでとうございます。自然豊かな西宮市の象徴・甲山にある甲山湿原。湿原の三種の神器とされる昆虫「ハッチョウトンボ、ヒメヒカゲ、ヒメタイコウチ」が揃って生息していた日本で唯一の湿原です。しかしここ10年ほど、前2種の姿が見当たりません。手を加えないことが自然保護との思いが土台にあり、気がつけば、湿原に樹が茂って日当たりが悪くなり、水も枯れ、湿原らしさを失ったのが原因の1つです。市が市民を巻き込んで湿原回復事業に取り組まれたところ、湿原植物のカキランやウメバチソウなどが勢いを取り戻し始めました。サギソウやトキソウ、先の昆虫2種も、再び姿を現すかもと期待が膨らみます。自然環境は放置すれば一定方向に遷移し、単一化します。多様な生き物の暮らしには、各々に適した多様な環境が必要です。湿原回復事業のように、今後は地域に目標を立て、意図的に維持・管理することが重要になるでしょう。



西宮自然保護協会  
会長  
三宅 隆三 氏



# 最新TOPICS

## 東部総合処理センター焼却施設 運転開始



**平** 成 24 年 12 月、鳴尾浜に新たに建設した東部総合処理センター焼却施設が、本格運転を開始。1 日 140 トンのごみを焼却する炉を 2 基有し、焼却時には高温焼却により、ダイオキシン類、窒素酸化物、一酸化炭素などの有害物質の発生を防いでいます。さらに燃焼熱を利用して最大 7,200 キロワットの発電が可能で、発電した電力は場内での利用のほか、余剰分を電気事業者に売却することで、回収したエネルギーを再び社会に還元。地球温暖化防止にも貢献しています。

## 三宣言記念事業を開催



**平** 成 25 年 9 月 16 日、「文教住宅都市宣言 50 周年」「平和非核都市宣言 30 周年」「環境学習都市宣言 10 周年」を記念して、兵庫県立芸術文化センターで「三宣言記念コンサート&まちづくり夢トーク」を開催しました。西宮にゆかりのある演奏家によるコンサートや、三宣言の意義を踏まえ、多彩なゲストが西宮を語り合う「まちづくり夢トーク」が行われました。平成 25 年度は、三宣言を記念したセミナーや体験講座などさまざまなイベントが 1 年を通じて開催され、よりよい未来を築く大きな節目の年となっています。





環境学習都市宣言から 10 年。

市民一人ひとりの力によって、西宮市の自然は生まれ、

より魅力的なものとなりました。

この先、10 年、50 年と変わることなく誇れる

「環境学習都市にしのみや」となるために、

私たちは環境学習活動を継続しなければいけません。

「持続可能なまちづくり」。

これは、未来の西宮に住む人々に届けるべき

大切なメッセージです。





## 環境学習都市宣言 10周年記念誌

発行年月：平成 26 年（2014）3 月

発行：西宮市

企画・編集：西宮市環境・エネルギー政策課

〒662-8567 西宮市六湛寺町 10 番 3 号

TEL：0798-35-3803

FAX：0798-35-1096

URL：<http://www.nishi.or.jp/>

制作：株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所



この冊子は、森林認証のパルプを  
一部配合した紙を使用しています。